

研究タイトル：

高専学生のライフスキルについて



氏名：	浦田 清 / URATA Kiyoshi	E-mail：	urata@hakodate-ct.ac.jp
職名：	教授	学位：	体育学修士
所属学会・協会：	日本体育学会, 日本スポーツ心理学会, 日本コーチング学会		
キーワード：	ライフスキル, 高専学生		
技術相談 提供可能技術：	・ライフスキル測定と分析		

研究内容： 高専学生のライフスキルについての研究

近年、小学校、中学校、高校においては生きる力、大学においては社会人基礎力という言葉が用いられ、学力のみならず人が社会の中で人と交わり、問題を解決し、健全に生きていく基礎能力の育成が必要であると考えられるようになってきた。WHOは同様な概念としてライフスキルという言葉を用いて「日常生活の中で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」と定義し、そのスキルを育む必要性を指摘している。高専学生においても技術者となるための実験、実習や卒業研究など特色ある5年間の教育の中で独自のライフスキルを身に付けていくものと考えられる。本研究は、高専学生にはどのようなライフスキルが必要とされ、育まれているかを明らかにすることを目的としている。

既存のライフスキルを測定する尺度を用いた調査では、高専の4・5年生は1～3年生と比較して情報要約能力、自尊心、設定目標の実行、対人マナーで有意に優れている。高校生と比較すると有意に親和性に乏しく、男子学生は時間の有効利用が劣っている。女子学生は情報要約能力、設定目標の実行、生活目標の設定で有意に優れている。文系大学生との比較では時間の有効利用に有意に優れている。女子学生は対人マナー、生活目標の設定で有意に優れているという結果を得た。

さらに、高専生独自のライフスキルを調査するため予備調査、全国の約1000人の学生に対する本調査を実施し、因子分析を経て、情報要約・批判的創造的思考スキル、対人関係・コミュニケーションスキル、意思決定・計画的問題解決スキル、自己主張スキルが抽出され尺度を構成した。その尺度に基づいた比較では、男子学生において対人関係・コミュニケーションスキルで、女子学生においては自己主張スキル、意思決定・計画的問題解決スキルで4・5年生が1～3年生より有意に優れている。運動部所属学生と無所属の学生との比較では、運動部所属学生において意思決定・計画的問題解決スキル、対人関係・コミュニケーションスキルで無所属の学生より有意に優れているという結果を得た。

今後、作成された尺度を用いて、学業成績との関連やどのような授業がどのようなライフスキルと関連しているか、さらに、高専生活で育まれたライフスキルが日常生活の中でも発揮されるかどうかの調査を進めて行く。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)